Masuko Memorial Hospital
Masuko Clinic Subaru

ますこ新聞

MASUKO

令和2年5月発刊

コロナウイルス感染を終息させ、安心・安全な社会を取り戻そう

衆済会増子記念病院　理事長・院長　両角國男

　コロナ肺炎情報は、テレビ、新聞などのメディアから報道され、社会に大きな不安をもたらし、自分や家族を守るにはどうすればよいかと心配されていると思います。人気タレントさんが亡くなったことは大きな衝撃でした。コロナ肺炎の拡大と鎮静化する経過を世界と日本の状況から学びながら、どうすればコロナ肺炎を終息させることが出来るか、私たちがしなければいけないことを考えましょう。

　昨年12月（2019）中国武漢市から発生した新型コロナウイルス肺炎は地域で封じ込むことはできず、都市封鎖で感染は下火に向かいました。一方、欧米中心に感染は急激に拡大し、現在は世界中で感染発生するパンデミック状態です。新型コロナ肺炎は、病変の悪化速度が速く全身に病変拡大すると死に至ることがあります。

　5月13日現在、世界で426万人が感染し死亡者は29万名(6.8%）で、150万名(35%)は回復しています。米国で最多の140万名が感染し、スペイン、イギリス、イタリアの死亡率は10%を越しています。日本では16000名が感染し、死亡者は678名(4.2%)で、8920名（56%）が回復しています。4月初旬に緊急事態宣言があり、5月末まで社会活動が大きく制限され、皆さんも不自由を感じながら、この危機を乗り越えるため我慢をしていることと思います。愛知県は日本の中で感染者が早く増加し500名を越しましたが、幸いにも感染対策が奏功し5月の連休明けからは新規発生ゼロの日が増えています。関東地方でも新規発生は目立って減ってきました。

　コロナ肺炎がこのまま終息することを誰もが願っています。しかし、いったんは沈静化しても気を緩めると再び急激に新規感染患者さんが増加する危険は非常に高そうです。社会活動の制約が緩和されても、コロナ肺炎を社会に蔓延させないため細心の注意が必要です。
　コロナウイルスワクチンは開発中、特効薬もまだありませんが、コロナ感染を抑え込むことはできます。皆さんが自分のために、愛する家族のために毎日行っていることが感染抑制には最も有効です。コロナウイルスは、ヒトからヒトへ飛沫感染で拡大します。

　マスクの着装と頻回の手洗いが重要です。手で触れた部位へのアルコール消毒はとても有効です。死亡率が高く、感染が急増した欧米諸国と日本の違いは何でしょうか？日本人の挨拶は会釈と短い声掛けですが、欧米では、握手やハグしながら、体を密着させ、口元で大きな声で長く話します。

　以前から、日本では咳エチケット、花粉症や風邪などでのマスクは必需品です。一方、欧米ではマスクをしている人に出会うことはほとんどありませんでした。鼻をかむのもティシュペーパーでなくハンカチです。何よりも、日本人とは健康や衛生環境への意識が違っています。日本社会に定着した衛生概念にいつも気を付けましょう。特別なことをしなくても日本社会はコロナウイルスに打ち勝つことが出来ることを信じて、皆さんと手を携え、医療従事者は最善をつくします。

　皆さんが健康な日々を過ごされることを心から願っています。

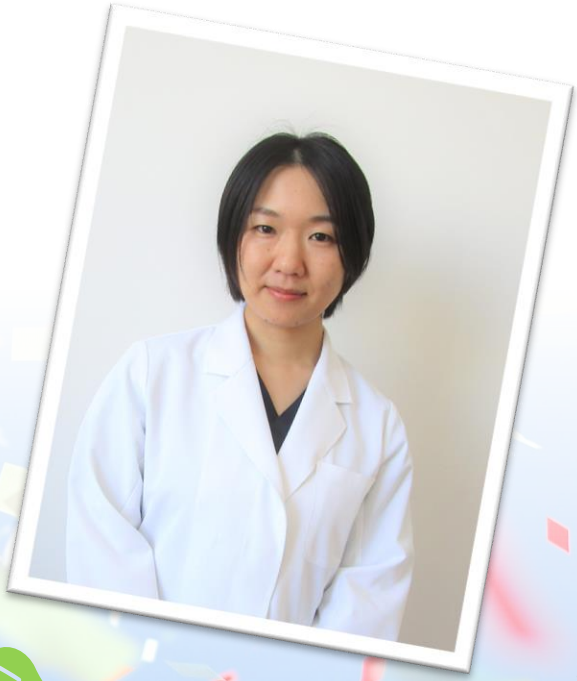
1.新任医師のご紹介

増子記念病院に、2名の医師が新しく赴任しました。2月に赴任しました、腎移植科の松岡裕（まつおかゆたか）先生、4月に赴任しました、腎臓内科の関谷由夏（せきやゆか）先生を紹介します。

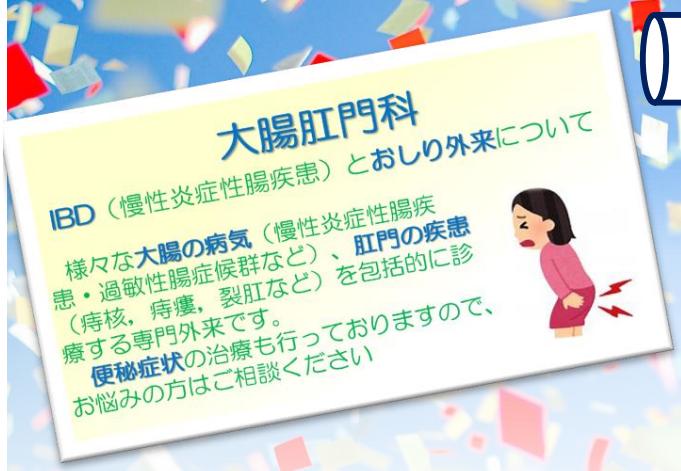
腎移植科　松岡裕 先生

愛知医科大学 腎移植外科で7年間移植医療に携わり、この度2月1日より腎移植科に赴任致しました松岡　裕です。腎移植手術や術後の外来を主として診療させて頂きます。腎移植を受けられた患者さんの腎臓が1日でも長く生着できるようサポート致します。
また腎提供をされたドナーさんの管理もさせて頂きます。受診された際には不安なこと、困っていることなど、何でもご相談下さい。
休日は子供と公園で遊んだり、愛車の洗車をしたり、サッカー、ジョギングをするなど、体を動かして過ごすことが多いです。
どうぞよろしくお願い致します。

4月より赴任した関谷由夏と申します。これまでは初期研修終了後、名古屋医療センターの内科ローテートコースで後期研修を行い、腎臓内科医となりました。
患者様1人1人の訴えをしっかり聞いて診療していくことを心がけています。まだ医師としては学ぶべきことも多いと思っておりますので、関わることがあった際にお気づきになられたことがあれば是非教えてください。趣味はスポーツをすることですが、最近あまりできていません。よろしくお願いします。



腎臓内科　関谷由夏 先生



2.大腸肛門科(IBDとおしり外来)のご紹介

昔も今も非常に多くの方が肛門疾患あるいは便通の悩みを抱えておられ、また昨今は炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病など）や排便機能の異常（過敏性腸症候群）も増加の一途にあり、科をまたぐこれら疾患の包括的な診療を行う専門外来は日本にはありません。 血便、慢性の下痢や便秘にお悩みの方、あるいはおしりの悩みを抱えている方は、是非一度ご相談ください。

■大腸の検査について

当院では、ファイバースコープや内服カプセルあるいはCT装置を用いた、様々な最新の検査法が可能です。それぞれに利点と欠点があるので一概にどの検査が最良とは言えませんが、身体状況や目的疾患が異なるお一人お一人に合った精査法を選択することができます。

■治療について

肛門疾患は注射による痔核の硬化療法をはじめ日帰りで処置可能な例も多くなり、手術も痛みが少なく入院日数も格段に短くなりました。慢性便秘に対しては、残便感を伴わない完全排便を目指せる安全な薬剤がここ数年間でいくつも開発されました。また炎症性腸疾患の治療薬も飛躍的な進歩を遂げており、外来で管理できるケースが非常に増えてきています。一人でも多くの方にこの恩恵を被っていただけるよう、診療を行って参ります。

増子記念病院公式ホームページにて、担当医師より詳細な内容についてご紹介いたしております。併せてそちらも是非ご覧ください。

https://www.syusaikai.com/

増子記念病院 検索

3.コロナに負けない身体つくりのご紹介

外出自粛による運動不足の心配を体操や散歩でリフレッシュ!!

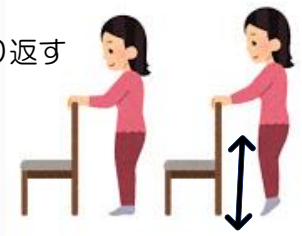
自宅でできる！

①軽く足を開き、
椅子の背や手すりにつかまり胸を張って立つ

②かかとをゆっくりあげ、つま先立ちになる

③ゆっくり元の位置に戻る

④②～③を10回繰り返す



①いすに深く腰掛け、ひざを90度に曲げる

②片足の膝を伸ばしながら、ゆっくりと上げる

③足を伸ばした状態で5秒キープ

④ゆっくり元の位置に戻す

⑤左右交互に②～④を20回繰り返す

「ますこ・すばる新聞 令和2年初夏号」
発行：増子記念病院 広報委員会
（令和2年5月）

● 医療法人 衆済会 増子記念病院
〒453-8566 名古屋市中村区竹橋町35番28号
TEL：(052)451-1307 ／ FAX：(052)451-1324

● 増子クリニック昴
〒453-0856 名古屋市中村区並木1丁目322番地
TEL：(052)412-8211 ／ FAX：(052)414-2962